御由緒

東鏡（あづまかがみ）には長津呂崎（ながつろさき）古くは伊豆ヶ崎ともいわれ、伊豆の最南端に位置し、付近の風波も荒く隠れた岩礁も多いことから、昔より航海者の最も警戒する場所のひとつであった。当社はその南端の岸壁に鎮座し長く海上安全、産業振興の神としてあがめられてきた。

創立は定かではないが五世紀頃に物忌奈命（ものいみなのみこと）を祀る神社として、秦氏により建立されたと伝えられている。その後、役行者（えんのぎょうじゃ）が十一面観音を合祀し、大宝元年（七〇一年）現在の場所に神仏合祀の石室神社を建立した。延喜式神名帳に伊波例命（いわれのみこと）神社、神階帳に従四位上いわらい姫の明神として名を列ねる式内社である。

伊豆の七不思議

① 石室神社（千石船の帆柱）
② 手石の阿弥陀三尊（南伊豆）
③ 河津来宮神社（鳥精進・酒精進）
④ 大瀬神社（明神池）
⑤ こだま石（函南）
⑥ 独鈷の湯（修善寺）
⑦ ゆるぎ橋（堂ヶ島）

千石船の帆柱（写真下）

御祭神

伊波例命（海上安全の神）
物忌奈命（学問・産業の神）
十一面観音・大六天神

合祀

大国主神　崇徳天皇
事代主神・梵釈四天王
住吉三神・海神自在青龍王
須佐之男命（縁結びの神）

境内社

例祭日

四月三日

御神徳

海上安全
学業成就
厄除開運
縁結び等

御神宝の鮑貝

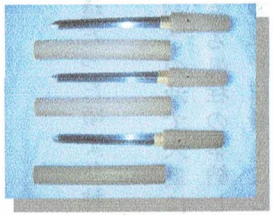
断崖に鎮座する神社の建替えはとうてい並の番匠にできる仕事ではない、時の名匠が選ばれて建築にとりかかった。その番匠は精進潔斎の上仕事にあたったが、どうしたはずみか足をすべらせ、まっさかさまに転落してしまった。絶体絶命かと思われたが番匠は生きたまま無事波間に浮かびあがった。

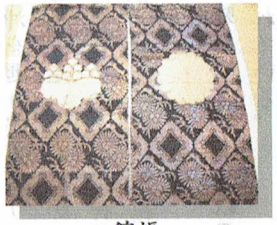
その時番匠の手にしていた鑿の先には、大きな鮑貝が突き刺さっており、殻には十一面観音の尊像がありありと浮かんでいた。人々はそのあらたかな霊験に驚きを新たにし、村人はこれを御神宝としてあがめ、いまに秘蔵している。

御神宝

十一面観音の尊像の浮かんでいる鮑貝をはじめ、文久三年鷹司家より奉納の燈籠・錦帳・土器類の他、多数の古文書を有する。

殿内には、日露戦争時のロシア軍の砲弾、昭和十八年に横須賀海軍より奉納された木製の練習機のプロペラ、天平神護時代の作と伝えられる木像等がある。


御神剣


錦帳

石室神社縁起書

燈籠

ロシア軍の砲弾

木像類

千石船の帆柱　伊豆七不思議のひとつ

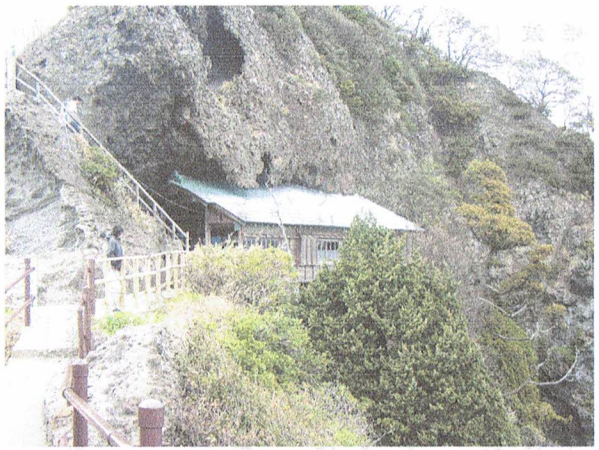
明治以前、参道がまだ細く険しい山道だった頃より神前に横たわっていたこの帆柱には、さまざまな伝承や民話が残っている。

その昔、江戸へ向かう播州の千石船がこの沖で大嵐に襲われた。船頭たちは転覆寸前の船上から目に見えぬ対岸の石室神社に、船の命である帆柱の奉納とひきかえに助けてもらえるよう一心に誓願すると、不思議な事に波は静まり船は無事江戸に着くことが出来た。

帰路、往路の誓願を忘れた船がこの沖を通り過ぎようとしたが、どうした事か船は一向に進まず次第に暴風雨となった。船頭は往路の誓願を思い出し総がかりで帆柱を切り倒して海に投じると、帆柱は荒れ狂う大波に乗り、まるで供えられたかのように神前に打ち上げられ、同時に海も静まったという。（民話によっては大波ではなく龍がくわえて神前に供えたとするものや、妻良港（めらこう）で帆柱を新調したというものがある。）

帆柱の材質は檜で、明治三十四年に建替えられた社殿の土台として、本殿下に三間（約五メートル）拝殿下に六間（約十一メートル）使われている。

〒415-0156
静岡県賀茂郡南伊豆町石廊崎９番地
石室神社社務所発行
電話　０５５８（６５）１０６４



伊豆石廊崎鎮座

石室神社御由緒

鎮海守護・学問・縁結びの神